

「鳥獣被害対策」の取り組みについて

1 これまでの取り組み（成果）

- ・ 平成 24 年度の抜本強化以降、防護柵設置による「守り」と捕獲による「攻め」の両面から対策を強化
- ・ 「守り」では、被害ゼロを目指して集落ぐるみで取り組むモデル集落を育成、平成 27 年度からは、被害集落の半減に向けて 3 年間で 500 集落の支援を実施中
- ・ 「攻め」の捕獲では、シカの年間捕獲目標 3 万頭の達成に向けて、狩猟者の確保と育成、くくりわなの無償配付や捕獲報償金の支援などで捕獲対策を強化

【成果】

- ・ 被害額は減少傾向、シカ・イノシシとも捕獲頭数が大幅に増加
- ・ H27～H28 年度に 348 集落を支援 → 合意形成：294 集落（合意形成率 84%）

2 課題

- ・ 被害額は総額 3 億円弱と依然として高い状況で約 8 割が農業被害であることから、集落ぐるみでの取り組みにおける合意形成の加速化や支援集落の拡大が課題
- ・ シカの捕獲頭数は、目標 3 万頭の 7 割程度で平成 27 年度は捕獲数の伸びが鈍化。さらなる捕獲の強化のためには、狩猟者の確保と育成による捕獲数の底上げが課題

3 今後の取り組みの方向性

- (1) 被害集落半減に向けた防除対策の強化
- (2) シカ捕獲目標 3 万頭の達成に向けた捕獲の強化

4 平成 29 年度の取り組み

- (1) 被害集落の半減に向けた防除対策の強化
 - ・ 野生鳥獣に強い高知県づくりによる支援集落の拡大と合意形成率の向上
支援集落：230 集落 合意形成率：84% → 90%
 - ・ 鳥獣被害対策専門員の体制強化による被害集落支援の充実
配置体制：11JA 15 名 → 12JA 16 名
 - ・ 野生鳥獣に強い県づくり事業費補助金による防護柵やサル用大型囲いわなへの支援
- (2) シカ捕獲目標 3 万頭達成に向けた捕獲対策の強化
 - ・ 狩猟者の確保と育成、捕獲技術の向上による捕獲頭数の底上げ
 - ・ 狩猟者の技術に応じた使い勝手の良いくくりわなの購入を支援しシカの捕獲を推進
 - ・ 狩猟期間の延長を検討

 - ・ 捕獲した鳥獣の有効活用を推進するため、ジビエフェアの開催や官民協働によるよさこいジビエ研究会活動の強化
 - ・ ジビエカーを活用した集落活動センターにおけるジビエ生産販売モデルの育成

鳥獣被害対策の推進

守り
防除 (防護柵の設置などによる防除)
+
攻め
捕獲 (わなや銃による捕獲)

【これまでの取り組み】

◆平成24年度から鳥獣対策を抜本強化

- 集落ぐるみで取り組むモデル集落の育成
 - ・総合的な対策で被害をゼロにするモデル集落を育成し成功事例を構築 (3年間で31集落を支援)
- 鳥獣被害対策専門員による支援の強化
 - ・JAに配置した専門員による農家等への総合窓口としての体制強化
- 国の交付金等を活用した防護柵の設置

◆平成27年度からさらなる強化

- ①被害集落半減に向けた防除対策の強化
 - ・野生鳥獣に強い高知県づくりによる被害集落への支援 (被害の深刻な1,000集落を半減⇒3年間で500集落を支援)
- ②鳥獣被害対策専門員を拡充し支援体制を強化
 - ・9JA10人⇒11JA15名
- ③国の交付金に加えて
- ④県の補助金によるきめ細やかな支援の実施



◆シカ捕獲目標3万頭の達成等に向けた捕獲の強化

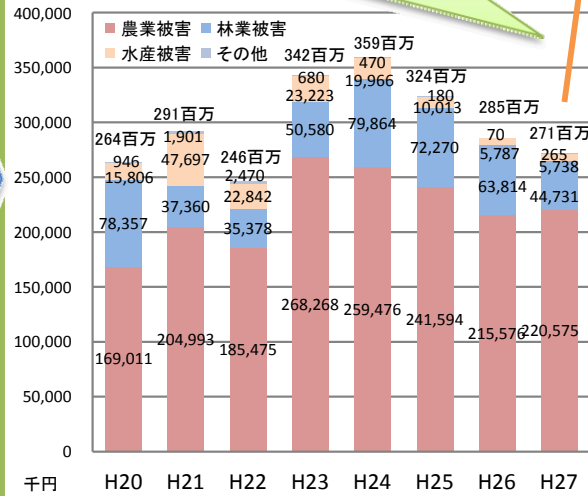
- ①新規狩猟者の確保・育成
 - 新規狩猟者の確保
 - ・受験機会の拡大
 - ・経費負担の軽減
 - ・狩猟フォーラムによる啓発 (目標: 新規狩猟者年間500人の確保)
- ②捕獲の推進
 - 地域ぐるみでの捕獲の推進
 - ・くりわなの無償配付 (3年間で1,673集落に12,900個配付)
 - 国・県の捕獲報償金による支援
 - ・有害捕獲や狩猟での捕獲の支援
 - 捕獲技術の向上
 - ・わな猟の講習会
 - ・高知県版捕獲マニュアルの無償配付
 - 山岳地など捕獲困難地での捕獲強化
 - ・深刻な森林被害や自然植生被害への対応を強化



【成果と課題】

野生鳥獣による農林水産被害額の推移

被害額は減少傾向にあるものの依然として3億円近い状況



被害額の約8割が農業被害

集落ぐるみでの取り組みが重要

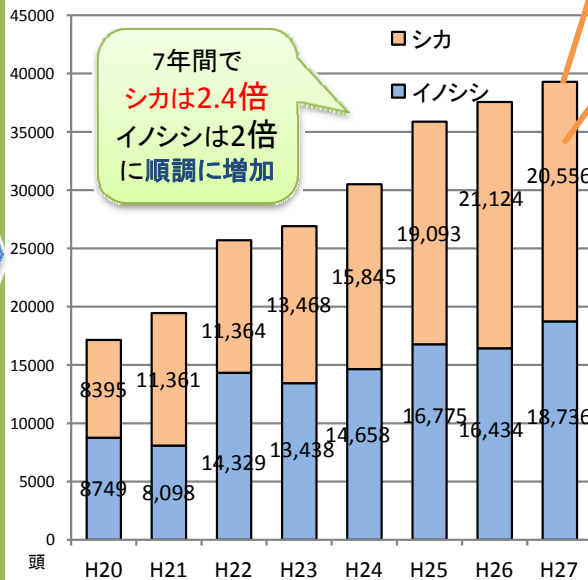
野生鳥獣に強い高知県づくりの推進

H27~H28年度
348集落を支援
◎294集落で合意形成(84%)

合意形成には時間が必要
支援集落の無い空白地域の解消も課題

シカ・イノシシの捕獲頭数の推移

7年間でシカは2.4倍
イノシシは2倍に順調に増加



シカ捕獲頭数の伸びが鈍化

シカの捕獲目標頭数3万頭に対して約7割

狩猟者の減少や高齢化
わな猟の技術向上による捕獲頭数の底上げも課題

【目標達成に向けたさらなる強化】

◆被害集落半減に向けた防除対策の強化 (被害集落半減目標(3年間で500集落の支援)の達成に向けた支援の加速化と支援集落の拡大)

- ①野生鳥獣に強い県づくり事業委託料 (9,033千円)
 - ・支援集落の拡大と合意形成率の向上
支援集落: 230集落 合意形成率: 84%→90%
- ②鳥獣被害対策専門員配置事業委託料 (45,808千円)
 - ・支援集落の拡大と空白地域の解消のための体制づくり
11JA, 15名 → 12JA, 16名
- ③鳥獣被害防止総合対策交付金 (435,996千円)(国費)
 - ・集落ぐるみで設置する防護柵の支援で集落の合意形成を推進
- ④野生鳥獣に強い県づくり事業費補助金 (37,150千円)
 - ・国交付金の要件を満たさない防護柵の設置へのきめ細かな支援
 - ・支援集落等へのサル捕獲用大型囲いわなの補助や銃猟の担い手確保等のためのメニューを追加



◆シカ捕獲目標3万頭の達成に向けた捕獲の強化 (新規狩猟者の確保と技術向上による捕獲頭数の上積み)

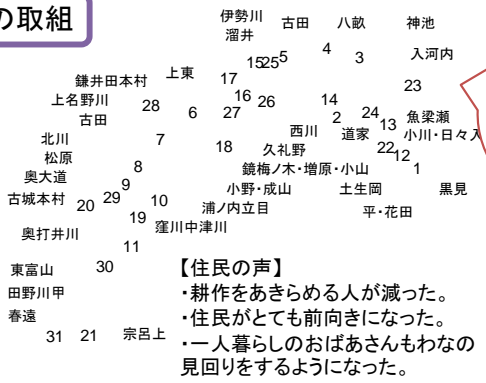
- ①新規狩猟者の確保・育成
 - 新 森林地域シカ捕獲体験事業 (803千円)
 - ・狩猟フォーラム参加者等を対象にした狩猟体験ツアーの実施
 - 新 わな猟捕獲技術向上事業 (2,682千円)
 - ・未登録狩猟者の参画を目指したくりわなの製作講習会
 - 新 マイスター捕獲技術指導事業 (1,507千円)
 - ・マイスターによる初心者へのマンツーマン指導の実施
 - 新 DVD制作委託料 (999千円)
 - ・わな名人の捕獲技術をDVDにして効率的効果的に県内へ普及
- ②捕獲の推進
 - 新 シカ捕獲推進事業費補助金 (16,000千円)
 - ・地域や技術に応じた使い勝手の良いくりわなの購入を支援
- ③シカ肉等の有効活用の推進
 - ジビエ活用推進事業委託料 (4,000千円)
 - ・地域資源としての有効活用と消費拡大(ジビエフェアなど)



H26年度までの取組

有害鳥獣を集落に寄せ付けられない環境整備・防護柵等による防除・捕獲のバランスがとれた総合的な対策を推進

3年間で
31集落を支援



室戸市黒見・奈半利町平花田・本山町古田・四万十市東富山大屋敷など約9割の集落で被害額の大幅な軽減を達成

H26年度までに取組を終えた31集落のうち27集落で大幅な減少を達成！残る4集落も被害が軽減

被害対策モデルの確立

課題

- ◇モデル集落での成功事例の県内への波及
- ◇鳥獣被害対策専門員の空白地帯の解消
- ◇鳥獣被害対策専門員の活動強化

目標

- 専門員の活動強化と空白地域の解消
- 専門員を中心にしたモデル集落での成功事例の普及 (対象約1,000集落)
- *シカ・イノシシ・サル被害が深刻な集落

H27～29年度の取組

◆鳥獣被害対策専門員配置事業
成功事例普及に向けた集落の支援強化
*専門員の充実(H29年度は12JA16名)

◆野生鳥獣に強い高知県づくり
鳥獣被害対策専門員が中心となってモデル集落の取り組みを周辺に波及

3年間で500集落を被害「0」

推進チームによる集落の支援
◇推進チームによる支援集落の選定と支援
◇地域に応じた対策をコーディネート
H29年度は約230集落を支援

専門員による被害レベルの把握

集落活動センター
集落営農組織
集落協定などを中心に選定

推進チーム

鳥獣被害対策専門員
農業振興センター、市町村、専門機関、鳥獣対策課、(林業事務所)

集落のまとまりと緊急性を考慮して支援をスタート

集落での勉強会の開催
◇被害対策の基礎知識を学習
◇今すぐできる対策をスタート
◇集落を野生鳥獣の立場から点検

シカやイノシシ等の生態や対策の基本をみんなで勉強

追い払いや放任果樹の剪定などできることから対策をスタート

集落の環境調査や鳥獣の出没状況の把握
◇農地の利用状況や被害場所、イノシシやシカの侵入経路を調べて対策用のマップを作成
◇自動カメラで加害鳥獣の特定や出没状況などを調査

農地等を調べてマップ化し視覚的に被害状況等を把握



集落での共通認識の醸成(合意形成)
◇推進チームで検討し、集落で共通認識や取組みについての合意形成を醸成

マップを活用した集落での検討会

先進事例も視察
○モデル集落での身近な成功事例を視察
○やればできるを体感

集落共同での防護柵の設置と管理
◇集落ごと効率よく囲う防護柵の設置
◇効果的な防護柵の設置研修会
◇定期的なメンテナンスの体制づくり

国交付金や県単事業を優先配分
○自力施工は国費で資材代を全額支援
○県単できめ細やかな支援を実施

地域ぐるみで捕獲を推進
◇みんなで狩猟免許を取得
◇わなのかけ方講習会の実施

捕獲した鳥獣の有効活用(ジビエの普及)
◇捕獲した鳥獣を地域資源として有効活用
◇婦人会や猟友会との連携

鹿肉ロースト

集落の自立へ

○元気な取組事例を情報発信 Mさらに周辺地域に波及！